郷土を知り、郷土を愛する

志木市歴史そんぽ

執筆・協力　志木のまち案内人の会

第75回　坂上田村麻呂とムクノキの伝説

平安時代初期の延暦年間(782～808)、坂上田村麻呂は三度、蝦夷征伐に赴きましたが、柏町の舘ノ氷川神社には次のような伝説が伝えられています。

天皇の勅命を受けた坂上田村麻呂は征夷大将軍として蝦夷征伐に向かう途中、武蔵野に良民を苦しめる賊徒の多いことを聞き及び、その討伐に向かったのでした。ところが賊は思いのほか手ごわく、しかも地の利を得ていることから田村麻呂の軍勢は包囲され、戦いの日が続くうちに兵糧も欠乏して苦境に陥ってしまいました。

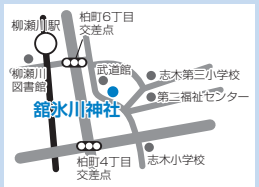
そこで田村麻呂は、この難局を切り抜けるには武蔵国一の宮の氷川神社の神威をお借りするしかないことを悟って、部将に戦いの指揮を委ねて自ら氷川神社に赴いて戦勝を祈願しました。

すると、軍勢が立てこもっていた森の中に枝もたわわに実をつけたムクノキを見出すことができました。空腹も重なり、戦いに疲れ切っていた将兵は、ムクノキの実で飢えを癒すとみるみる勢いを盛り返して、ついに頑強な賊の囲みを破ることができたのでした。

田村麻呂は、この勝利こそ氷川神社の加護によるものと深く感謝し、新たに氷川神社を勧請してムクノキの傍らに祠を建てましたが、これが舘ノ氷川神社の起源であるといわれています。

かつて境内に朽ちかけたムクノキの古木があり、田村麻呂の軍勢を救ったムクノキの後に植えられた二代目のムクノキであるといわれています。その古木の一部はご神木として本殿脇の額殿に保存されていますので、氷川神社参拝の際にぜひご覧ください。

参考文献：「しきふるさと史話」平成6年11月 志木市教育委員会



所在地／柏町3-6-19（武道館付近）
柳瀬川駅から徒歩で約10分


▲ムクノキの古木



土台を築いた一年、夢をカタチにする新たな年へ

師走を迎え、今年もあっという間に１年が過ぎたなと感じています。令和８年を振り返りますと、４月からスタートした「よりそう想い 広がる絆 いいね！がいっぱい 志木のまち」をスローガンとする、市が目指す今後10年間のまちづくりの指針「第二次志木市将来ビジョン」をもとに、ソフト・ハード両面において、しっかりと土台を固めることができたと思っています。

皆様にご心配をおかけした市民会館及び市民体育館の再整備である新複合施設の建設は、ようやく光が見え、令和９年度の着工に向けて設計の見直し作業などを最大限のスピード感をもって進めています。また、築40年以上が経過していた秋ケ瀬スポーツセンターは、市民のスポーツ振興と地域コミュニティの拠点として、令和９年度のリニューアルオープンを目指し着々と工事が進んでいます。さらに、開園から50年以上が経過していた北美保育園は、令和10年度のリニューアルオープンを目指して、11月から新園舎の建築工事に着手することができました。

将来を見据えた土台づくりは、ほかの分野でも。災害時に備える取組として、避難所の衛生的なトイレ環境を確保するため「災害用トイレトラック」を配備しました。５基の水洗トイレを備え、車いすの方や人工肛門・人工膀胱のあるオストメイトの方も安心して利用でき、ほかの被災地への派遣など、自治体間の災害支援の連携強化にも活用することができます。

また、健康寿命の延伸に向けては、加齢により心身の働きが弱まった状態（フレイル）を予防するため、今年は市民の皆さんが身近な場所で参加できる「出張型フレイルチェック」をスタートさせました。フレイルサポーターの皆さんが「いろは百歳体操」などの会場に直接出向くことで、町内会館などの近くの集いの場で定期的にチェックを受けることが可能となりました。

こうした取組が評価され、「SUUMO（リクルート）住みたい街ランキング2026首都圏版」の「自治体政策が魅力的、先進的である自治体」において、志木市は埼玉県内で２位にランクイン。本市が進めてきた取組がしっかりと評価されていることに、確かな手応えを感じています。

物価や建築資材の高騰、頻発する自然災害、少子高齢化の進行…。自治体を取り巻く環境が厳しさを増す中にあっても、市民の皆さんに寄り添いながら、一つひとつの取組を、丁寧に、そして着実に進める必要があります。明け来る年も、市民の皆さんの夢がカタチとなって「いいね！」がいっぱいの志木市となるよう、職員一丸となって前進していきます。